

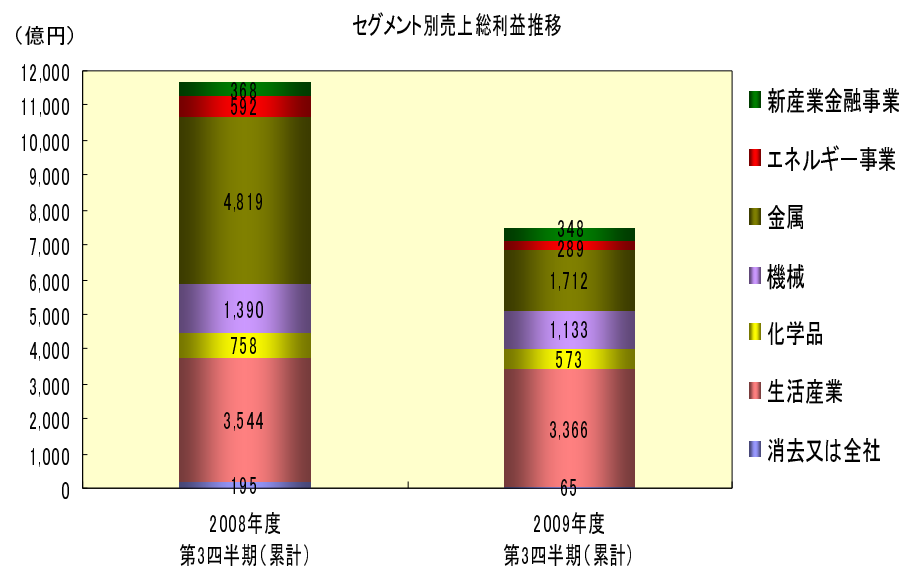
# 2009年度第3四半期 決算公表参考資料

2010年 1月 29日

三菱商事株式会社

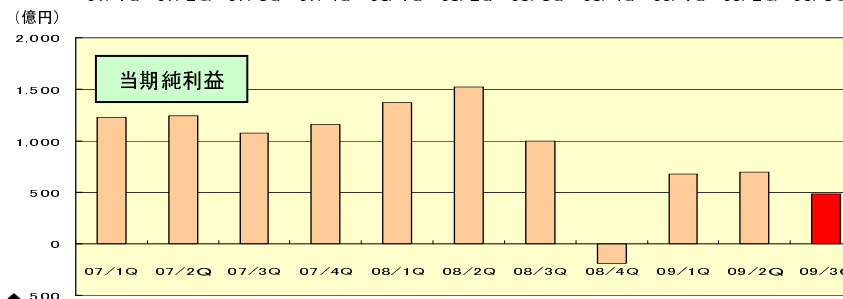
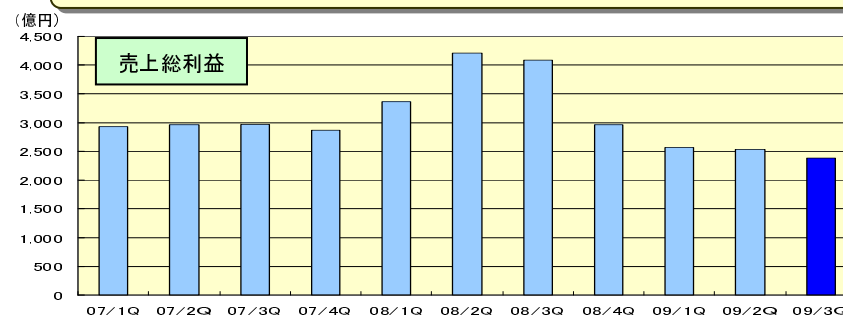
## 主要PL項目の前年同期比増減(9ヶ月)

(億円)	2008年度 第3四半期(累計)	2009年度 第3四半期(累計)	増減	増減率	2009年度 通期見通し (2009年10月公表)	達成率
売上高	184,182	124,515	▲ 59,667	-32%	173,000	72%
売上総利益	11,666	7,486	▲ 4,180	-36%	10,400	72%
営業利益	5,076	1,244	▲ 3,832	-75%	1,840	68%
当期純利益	3,888	1,856	▲ 2,032	-52%	2,400	77%
基礎収益	7,534	2,531	▲ 5,003	-66%	3,490	73%



(※) 2009年4月の組織再編に伴い、2008年度第3四半期(累計)の数値を新組織ベースにリステートして表示しております。

### 過去のトラックレコード(四半期ベース)



本資料における「当期純利益」は、非支配持分を除く、三菱商事(株)に帰属する当期純利益の金額を表示しており、2008年度までの当期純利益と同じ内容です。  
また、「株主資本」も、非支配持分を除く、三菱商事(株)に帰属する資本の部の金額を表示しており、2008年度までの株主資本と同じ内容です。

## 主要PL項目の前年同期比増減(3ヶ月)

(億円)	2008年度第3四半期 (2008年10月～12月)	2009年度第3四半期 (2009年10月～12月)	増減	増減率
売上高	52,376	43,796	▲ 8,580	-16%
売上総利益	4,093	2,382	① ▲ 1,711	-42%
営業利益	1,951	279	② ▲ 1,672	-86%
当期純利益	996	482	③ ▲ 514	-52%
基礎収益	2,695	716	④ ▲ 1,979	-73%

①

### 《売上総利益の前年同期比増減》

原料炭価格の下落に加え、鉄鋼製品需要の低迷に伴う販売数量の減少や、資源関連を含む商品市況の下落、日本航空子会社向け燃料デリバティブ取引に係る損失計上などにより、前年同期比▲1,711億円(42%)の減益となった。

②

### 《営業利益の前年同期比増減》

一般管理費の削減への取り組みなどによる販管費の減少があったものの、原料炭価格の下落などに伴う総利益の減少により、前年同期比▲1,672億円(86%)の減益となった。

③

### 《当期純利益の前年同期比増減》

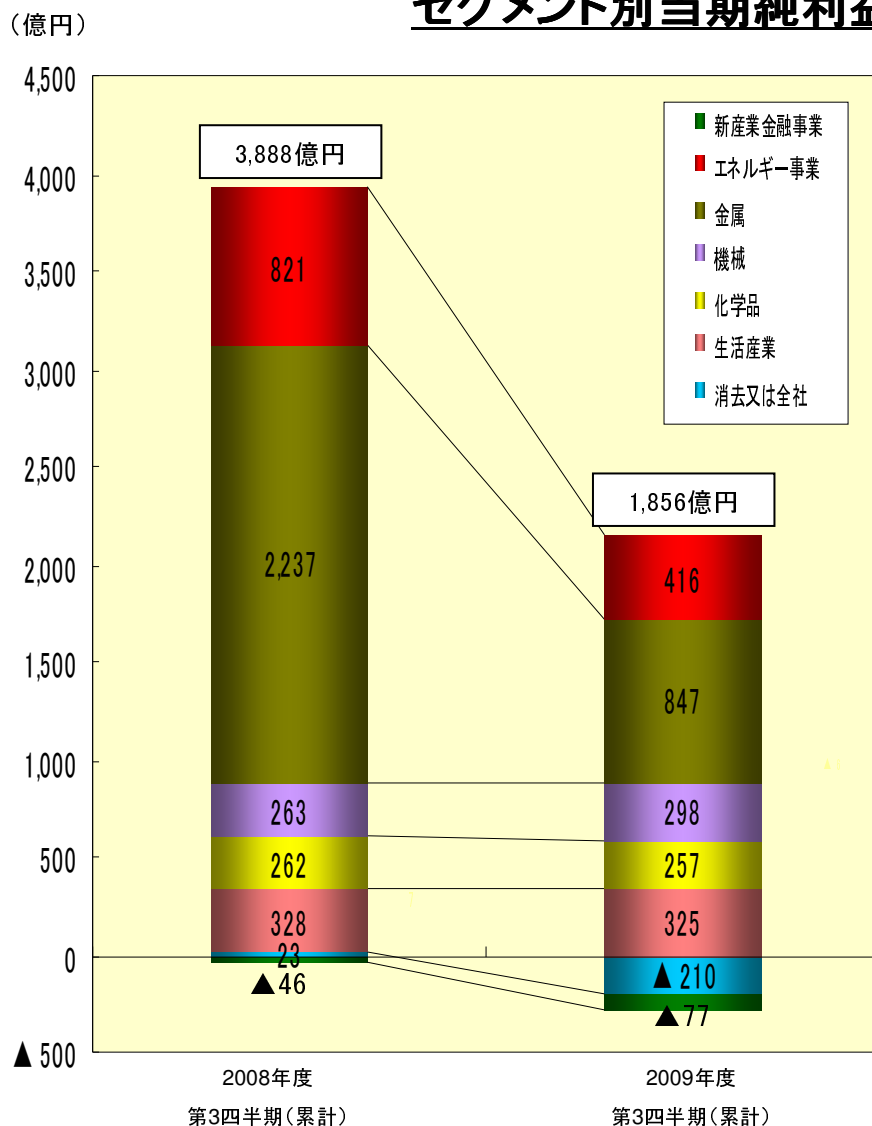
昨年度の有価証券減損の反動増や為替関連損益の改善があったものの、営業利益の減少や、日本航空株式の減損計上などにより、前年同期比▲514億円(52%)の減益となった。

④

### 《基礎収益の前年同期比増減》

営業利益の減少や、持分法損益の減少などにより、前年同期比▲1,979億円(73%)の減益となった。

## セグメント別当期純利益の前年同期比増減(9ヶ月)



(※) 2009年4月の組織再編に伴い、2008年度第3四半期(累計)の数値を新組織ベースにリステートして表示しております。

### セグメント別増減理由

- **新産業金融事業(31億円の減益)**  
ファンド投資関連収益が改善したものの、株式減損(日本航空株式等)の計上及び国内総合リース関連事業の持分利益減により減少
- **エネルギー事業(49%減益)**  
油価下落や円高による海外資源関連子会社の取引利益減、海外資源関連投資先の持分利益減及び日本航空子会社向け燃料デリバティブ取引に係る損失計上などによる減
- **金属(62%減益)**  
資源価格下落による取引利益や配当収入の減、メタルワン減益及び日本航空子会社向け燃料デリバティブ取引に係る損失計上などによる減
- **機械(13%増益)**  
前年同期の船舶市況高騰の反動、量販機械事業での取引利益減などがあつたものの、それを上回る海外IPP事業会社での利益増や前年同期の固定資産減損の反動などにより増益
- **化学品(横這い)**  
石化事業関連会社の繰延税金負債取崩に伴う持分利益増があつたものの、親会社及び子会社における前年同期の汎用化学品取引好調の反動による利益減によりほぼ横這い
- **生活産業(横這い)**  
前年同期における株式減損の反動増などがあつたものの、食料関連事業での取引利益・持分利益の減や、資材関連子会社での取引利益の減などによりほぼ横這い

### 資源価格の推移

	2008年度 第3四半期 (累計)	2009年度 第3四半期 (累計)	増減
油価(ドバイ)(\$/BBL)	94.3	67.5	▲26.8
銅価格(\$/MT)	6,676	5,724	▲952
アルミ価格(\$/MT)	2,516	1,767	▲749

## 市況の状況

### 商品市況・為替・金利の状況

	第3四半期 以降見通し(※) (a)	第3四半期 3ヶ月実績 (b)	増減 (b)-(a)	当期純利益に対する損益インパクト
為替(YEN/\$)	90.0	89.7	▲ 0.3	1円の円高(安)につき年間16億円の減益(増益)インパクト
円金利(%) TIBOR	0.50	0.51	0.01	取引利益や投資利益により金利上昇の影響は相殺される部分が相当あるが、金利上昇が急である場合には一時的に影響を受ける。
US\$金利(%) LIBOR	0.70	0.27	▲ 0.43	
油価(\$/BBL) (ドバイ)	65.0	75.4	10.4	\$1上昇(低下)につき年間10億円の増益(減益)インパクト
銅地金(\$/MT)	4,960	6,648	1,688	わが社配当収入の原資である銅鉱山の収益は、銅地金価格の変動に加え、粗鉱品位、生産・操業状況、再投資計画(設備投資)等の要素からも影響を受ける
アルミ地金(\$/MT)	1,750	2,003	253	\$100上昇(低下)につき年間10億円の増益(減益)インパクト

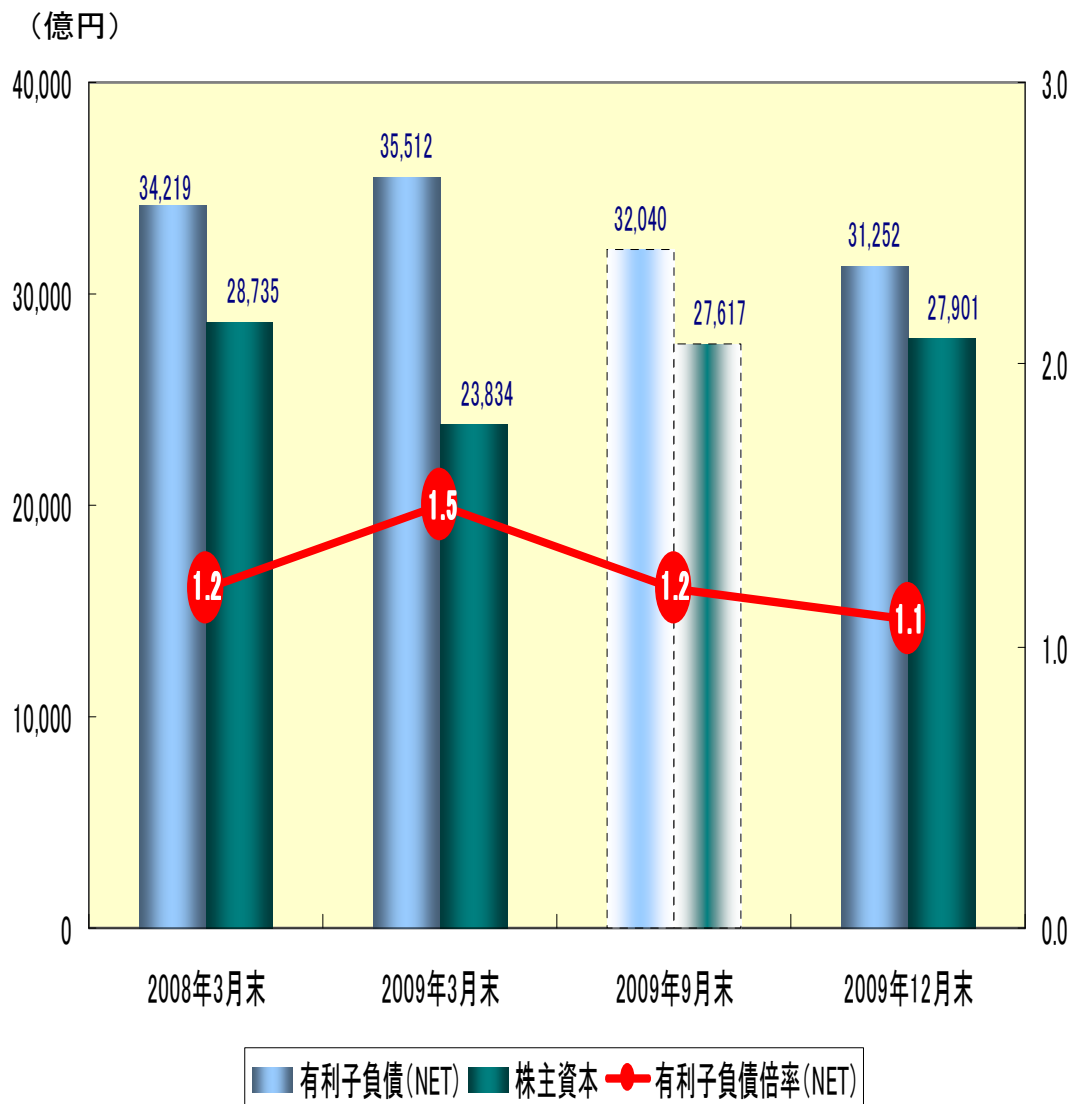
(※) 2009年10月30日に公表した通期業績見通し(当期純利益2,400億円)の前提

### 株価の影響(上場株式減損の状況)

	減損額(税引き後)	日経平均株価
第1・第2四半期計上	▲33億円	10,133円(09年9月末)
第3四半期計上	▲29億円	10,546円(09年12月末)
第3四半期(累計)	▲62億円	
通期見通し織込み額	▲100億円	日経平均が09年9月末の水準(10,133円)で推移した場合の発生額を織込み

(注意事項) 本資料における業績予想や将来の予測に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき合理的と判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性その他の要因が内包されています。従いまして、実際の業績は、見通しと大きく異なる結果となる可能性があります。

## 株主資本と有利子負債の増減



(倍)

主な株主資本増減要因  
(2009年3月末比)

- ① 当期純利益の積み上がり  
(1,856億円)
- ② 配当金支払  
(▲542億円)
- ③ 未実現有価証券評価益の増加  
(1,224億円)  
... 株価上昇による保有上場株式の  
含み益の増加
- ④ 為替換算調整勘定の改善  
(1,182億円)  
... 対豪ドル等での円安の影響

為替換算調整勘定への主要通貨別影響額

通貨種類	為替換算調整勘定への影響額 (概算: 億円)	2009年12月末レート	2009年9月末レート	2009年3月末レート	(参考) 2008年12月末レート
米ドル	▲200	92.10	90.21	98.23	91.03
豪ドル	+1,200	82.28	78.96	67.01	62.61
ユーロ	0	132.00	131.72	129.84	127.96
ポンド	+50	146.53	144.10	140.45	131.83
パーツ	0	2.76	2.68	2.76	2.60